

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

(公財)西日本産業貿易コンベンション協会と(公社)北九州市観光協会が統合し、
(公財)北九州観光コンベンション協会となったもの。(H29.4.1付)

法人の概要(平成29年4月1日現在)

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 利島 康司

4 基本財産

2,313,738千円

5 北九州市の出捐金

1,650,000千円(出捐の割合 71.3%)

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	12人	0人	1人	11人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	11人	0人	0人	11人
職 員	68人	7人	0人	61人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

平成28年度事業実績

1 総 論

西日本屈指のMICE開催拠点=小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン=を一体的に運営し、積極的にMICEを推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あるまちづくりに貢献するため、以下の方針で事業運営に取り組んだ。

- ・MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する。
- ・MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する。
- ・施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供し、目的達成の基盤を整える。

【概況】

平成 28 年度は、27 年度に引き続き夏季・冬季のにぎわいイベントを実施したほか、積極的にコンベンションなどの誘致・開催および貸館営業などに取り組んだ。これらの取り組みが奏功し、展示場・会議場ともに稼働率、利用者数で高い実績を確保することができた。

また、収支についてもある程度の黒字を確保し、顧客サービス向上のための施設改修や、老朽化した備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、イベント・コンベンション等の首都圏等への一極集中の進展、さらに周辺他都市では、新たに同様な施設の整備計画が多数同時で並行して進行するなど、中・長期的には楽観できない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化やサービス向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

【指定管理計画の達成状況について】

平成 28 年度は、概ね目標を達成した。施設別に見ると、展示場新館（国際展示場）が、利用件数 163 件・稼働率 81.8%（目標：144 件・73%）、国際会議場が、568 件・92.2%（目標：690 件・89%）と会議場利用件数は民間施設との競合で、目標を下回った。

施設利用者数については、現行の指定管理期間の 3 年目にあたる当年度は目標の 76 万人を大きく上回る 90 万人超を記録した。

引き続き、指定管理計画に掲げた目標の達成に向けて、積極的に誘致・営業活動を展開し、新たな見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて総力を挙げて取り組んでいきたい。

【平成 28 年度の取り組み】

主催事業への取り組み

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

コンベンション誘致の強化

開催助成金制度を有効に活用し、国際・全国規模の学会・大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、国際コンベンションゾーンの更なる振興を図った。

積極的な営業活動の実施

施設稼働率の向上に向け、より対象エリア・業界を広げた積極的な営業を推進した。併せて、施設利用者への集客や広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努めた。また、特に閑散期における利用者増・収入増を目的とした取り組みも行った。

小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップと賑わいづくりにつながるイベントや事業などを一体的に開催することを検討し、あるある City、ミクニワールドスタジアム北九州など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行った。

お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保し、一層のお客様サービスの向上、安全・安心を目指した施設設備の改善・充実に努めた。

また、展示場の利用者増および収入増を目的に、平成 26 年度に新設したスポーツ利用料金や他都市施設との相互利用割引料金を活用した。

西日本総合展示場本館の改修等

ミクニワールドスタジアム北九州に対応する環境整備を進めたほか、消防設備や雨漏れなど状態の悪い箇所から逐次回収を実施した。

公益社団法人北九州市観光協会との合併に向けた検討の着手

組織基盤の強化、拡充を図り、M I C E 誘致及び観光振興をより一層推進するため、公益社団法人北九州市観光協会との合併作業を行い、県の認可を経て、29 年度を初年度として新たに公益財団法人北九州観光コンベンション協会として発足することとなった。

見本市・展示会事業（公益目的事業）

2 主催・共催事業

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。展示会等を取り巻く環境変化に対応するため、国や地方公共団体の政策展開の場としての展示会のテーマ開発やビジネス取引拡大の場づくりなど事業の再構築を行っている。

当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

（ ）内は 27 年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本製造技術イノベーション2016	6月15日	14,688人	49社・団体 (58)
第42回ふくおか産業技術振興展	～17日	(15,096)	22社・団体 (23)
第38回西日本陶磁器フェスタ	9月15日 ～19日	49,258人 (55,727)	205社 (209)
エコテクノ2016～地球環境ソリューション展～	10月12日 ～14日	34,896人 (28,432)	66社・団体 (86)
エコテクノ2016～エネルギー先端技術展～			72社・団体 (99)
エコ・ベンチャー・メッセ2016			22社・団体 (24)
中小企業テクノフェア in 九州2016			61社・団体 (71)
P.P.C.2016 第18回西日本国際福祉機器展	11月24日 ～26日	19,903人 (21,003)	144社・団体 (151)
S A F E T E C 2016 [第2回西日本防災・防犯危機管理展]	11月10日 ～11日	5,098人 (10,052)	71社・団体 (85)
合計	9事業 (10事業)	123,843人 (174,309)	712社・団体 (1,003)

27 年度の合計には、「西日本インポートフェア&食メッセ2015」の実績を含む。

【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

ア 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行った。

○ 「西日本製造技術イノベーション」における取り組み

北九州ロボットフォーラム定期総会記念講演と併せて開催したロボット産業に関するセミナーのほか、北九州市が推進する「産業用ロボット導入支援制度」の紹介や地元中小企業への普及促進を目的としたセミナーを併催した。また、航空機・自動車産業で注目を集める新素材「CFRP(炭素繊維強化プラスチック)」の普及・啓発を目的に特別企画展を開催した。

イ 国際化の推進

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会提供に注力した。

○ エコテクノ～地球環境ソリューション展～国際環境ゾーン

環境を軸とした産業の活性化に寄与することを目的に、エコテクノ 2016 に海外企業 10 社、1 団体と海外投資支援機関 1 機関が出展し、商談と情報発信を実施した。

ウ 成果のあがる展示会の構築

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、より大きな成果が得られるように会期前後の活動を強化した

○ 西日本国際福祉機器展

「東アジア経済交流推進機構第 3 回国際ビジネス部会」の開催に併せて韓国釜山市、仁川市より 3 社が出展。国内バイヤーとの取引拡大を求めて対応を行った。

○ 中小企業テクノフェア in 九州 2016 ビジネスマッチング事業

大手企業OBの技術者で構成する「NPO法人北九州テクノサポート」と連携し、出展社の技術とノウハウを理解するための事前ミーティング、市内主要企業への事前PRや調整を行い、ビジネスマッチングをきめ細かくサポートした。

(2) 主催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。(134 テーマ、参加者数 6,369 人)

3 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) アジアとの連携・交流

ア 韓国BEXCO(釜山国際展示場)とのMOU事業

平成 27 年 10 月のMOU締結以来、BEXCOと主催事業の相互出展やベトナム環境展において九州企業の販路拡大を支援してきた。29 年 2 月には、BEXCOのハムCEOとさらなる展示・コンベンション事業等の連携を進めることを合意し、今後も新しいテーマの展示会で相互交流を進める中で、自主事業の国際競争力の強化に努める。

イ アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の充実

エコテクノに韓日産業技術協力財団を通じて韓国企業 7 社が出展して商談を実施した。また、BEXCOが主催する「ENTECH釜山」とのブース交換により韓国企業 2 社が出展したほか、香港貿易発展局も出展し、展示とプレゼンテーションを実施した。さらに、西日本国際福祉機器展内にて「KORECA」のPRブースを設けた。なお、当協会からは「ENTECHハノイ」「ENTECH釜山」「KORECA2016」に出展した。ハノイでは 5 社、釜山では 1 社の企業を参加コーディネートし、アジア地域での取引拡大を図った。

ウ 福岡県・北九州市との連携

エコテクノ会期中、福岡県・北九州市と協力して、環境技術の輸出促進や国際競争力の強化を図ることを目的に、「タイ・ミャンマー環境ビジネスセミナー」を実施した。

(3) 新規見本市の開発

「西日本インポートフェア&ふるさと食メッセ」をテーマから見直しを図り、輸入品から世界の良品に視点を広げるとともに、九州の成長産業と見込まれる観光分野をテーマに加えて「ワールドマーケット&ツーリズム」として企画を再構築した。

(4) 熊本・大分地震の復興支援

平成 28 年 4 月に発生した熊本・大分地震災害では、展示会に関する様々な団体・企業が被災した中で、協会施設や主催事業を活用して復興支援に取り組んだ。

ア 西日本陶磁器フェスタ

グランメッセ熊本で長年、開催されていた「ましきメッセもやい市」を同施設事務局と協働し、益城町などから生産者を招いて西日本陶磁器フェスタと同時開催した。併せてロールケーキフェスタの売り上げの一部を熊本県に寄付した。

イ エコテクノ

被災された熊本・大分両県の環境・エネルギー関連企業の販路開拓・情報発信の拡大の一助となるべく震災復興支援ブースを設けた。(参加数 6 社 6 小間)

ウ SAFETEC (防災・防犯危機管理展)

熊本県知事蒲島郁夫氏を招いて特別講演会を開催した他、会場内で熊本地震写真展を開催して熊本の現状を来場者に認識してもらい取り組みを行った。

会議・大会等 (公益目的事業)

4 誘致・支援事業

- (1) 北九州市が平成 27 年にグローバルMICE強化都市に選定されて以来、海外見本市・商談会やコンベンションビューローの国際組織である ICCAの総会、JNTOのキーパーソン招聘事業等に積極的に参加し、海外ネットワーク拡大とキーパーソンへのコンタクトを図った。また、地元MICE業界を束ねる北九州市グローバルMICE推進協議会を発足し、地元のバックアップ体制を強化した。なお、観光庁作成の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、28年度の当協会の誘致案件のみによる経済波及効果(間接2次波及効果、雇用効果を含む)の推計値は119億2,110万円であった。

年度別開催件数の推移

(単位：件)

区分	国際	全国	その他	合計
28年度	90	73	102	265
27年度	75	91	113	279
26年度	63	103	132	298

年度別参加者数の推移

(単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
28年度	44,580	104,687	53,997	203,264
27年度	47,906	108,105	63,191	219,202
26年度	49,207	75,054	79,018	203,279

国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、28年度の開催状況は、265件となった。

また、これらの誘致活動および開催助成金の効果として、29年度以降に合計115件(29年3月31日現在)のコンベンションが予定されている。

平成28年度開催の主な会議・大会

規模	名称	開催時期	会場	規模 (国、人数)
国際	世界ダンススポーツ選手権ユース・スタンダード2016	H28年7月	北九州市立総合体育館 AIM	7,000人 (40カ国 970人)
	ISMB15(第15回磁気軸受に関する国際会議)	H28年8月	門司港ホテル	840人 (19カ国 548人)
	FFW2016(第5回機械材料の疲労破壊に関する国際会議)	H28年8月	北九州国際会議場	192人 (12カ国 75人)
	AFC2016(第3回アジア未来会議)	H28年9月	北九州国際会議場 北九州市立大学北方キャンパス	1,200人 (17カ国 900人)
	IRC2016(2016年国際ゴム技術会議)	H28年10月	西日本総合展示場新館 北九州国際会議場	4,400人 (29カ国 900人)
	第2回ONE HEALTHに関する国際会議	H28年11月	リーガロイヤルホテル小倉	1,278人 (30カ国 160人)
	PPTox(第5回出生前プロゲラムミング及び毒性に関する会議)	H28年11月	北九州国際会議場	840人 (15カ国 600人)
	J&J Award Meeting 2016 in FUKUOKA	H29年3月	西日本総合展示場新館・AIM リーガロイヤルホテル小倉	1,905人 (10カ国 14人)

全国	2016 年度人工知能学会全国大会 (30 回)	H28 年 6 月	北九州国際会議場 AIM	3,500 人
	日本ケアマネジメント学会第 15 回研究大会 in 北九州	H28 年 6 月	北九州国際会議場 AIM	2,040 人
	第 70 回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会・第 71 回三笠宮杯全日本学生ソフトテニス選手権大会・第 58 回全日本学生ソフトテニス選手権大会	H28 年 8 月	三萩野庭球場 穴生ドーム	8,500 人
	第 25 回全国盲ろう者大会	H28 年 8 月	西日本総合展示場新館 AIM	2,236 人
	日本応用数理学会 2016 年度 年会	H28 年 9 月	北九州国際会議場	1,205 人
	第 25 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム	H28 年 10 月	北九州国際会議場 AIM	1,254 人
	第 59 回自動制御連合講演会	H28 年 11 月	北九州国際会議場	1,605 人
西日本九州	第 3 回九州保育三団体研究大会	H28 年 7 月	ソレイユホール 北九州国際会議場	4,506 人
	第 44 回マーチングバンド全国大会九州予選・第 21 回マーチングイン九州 2016	H28 年 10 月	北九州メディアドーム	3,760 人
	春の全国小学校ドッジボール選手権大会 福岡県予選大会	H29 年 2 月	北九州市立総合体育館	4,000 人

主催・共催事業については、北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した映画の上映や俳句等の文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅新幹線口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

（ ）内は 27 年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイト in くら	H28 年 8 月 23 日 H29 年 2 月 9 日	延べ 386 人 (延べ 400 人)
夏休みこどもシアター	H28 年 7 月 24 日	260 人 (263 人)
第 16 回全国俳句大会 in 北九州	H29 年 3 月 4 日 ～ 3 月 5 日	1,578 人 (1,485 人)
第 24 回北九州将棋フェスティバル	H28 年 9 月 17 日	688 人 (H27 年度は延期。実績無)

貸館利用者の誘致・営業強化

5 営業体制の強化

既存利用者の利用定着化及び過去の利用者の利用復活

過去の展示場の顧客データを分析するとともに、利用頻度が減少等している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援などの提案営業を実施し、10件の利用の復活を実現した。

新規利用者の開拓

食品機械関連や住宅、コンビニチェーンなど29件の新規展示会や講習会等を開催した。

大規模イベントの実施

8月に浅田真央を座長とするスケートショー「THE ICE (ザ・アイス)」を初開催、10月に2回目となる「東京ガールズコレクション」を開催、3月に「福岡カスタムカーショー2017 in KITAKYUSHU」を初開催した。

28年度 新規及び利用が復活した展示会・見本市等の誘致実績 ()は復活開催

催事名	会期
ビッグ・イヤー・アツツ(トラック駐車場として搬入路利用)	H28年4月2日～3日
第48回ファディ大展示商談会 ()	H28年4月17日～18日
丸菱展示会出展者説明会	H28年5月25日
ポケモンカードゲーム カメックスメガバトル	H28年5月29日
SKE48 19th 「チキンLINE」全国大写真会	H28年6月11日
医師と医療スタッフのための糖尿病療養指導セミナー ()	H28年6月12日
ネオフェスタ2016新商品発表会	H28年6月22日～23日
2016九州こいけ市 ()	H28年6月24日～25日
2016年タチカワブラインド新製品発表会	H28年7月6日～7日
どてらい市 ()	H28年7月9日～11日
ブラレール博 in KITAKYUSHU ()	H28年7月16日～19日
丸菱総合展 工程会議	H28年7月26日
だめな義歯からよい義歯セミナー	H28年7月30日
ブレイブフロンティア3周年ファン感謝祭	H28年8月7日
LOTTE presents THE ICE (ザ・アイス)	H28年8月10日～11日
創業95周年記念パーティ	H28年8月21日
MOTOYA JOINT FAIR & Seminar in 小倉	H28年8月29日～30日
丸菱 食品機械と原材料 総合展	H28年9月1日～2日
第三種電気主任技術者試験	H28年9月4日
FP技能検定試験	H28年9月11日
ひびしんビジネスフェア2016出展社向け事前説明会 ()	H28年9月16日

TDY リモデルフェア in 九州	H28 年 9 月 24 日～25 日
第 17 回 全国水墨研究会合同展 ()	H28 年 9 月 28 日～10 月 3 日
九州矯正展 ()	H28 年 10 月 1 日～2 日
電気工事士筆記試験 (第一種、第二種)	H28 年 10 月 1 日～2 日
創立 80 周年記念「日専連マーケット」説明会	H28 年 10 月 3 日
2016 ウェルディングフェスタ in 北九州 ()	H28 年 10 月 8 日～9 日
平成 28 年度宅地建物取引士資格試験	H28 年 10 月 16 日
ひびしんビジネスフェア 2016 ()	H28 年 10 月 19 日
Fun&Fresh 商品セミナー2016	H28 年 10 月 25 日～26 日
大販売会 日専連マーケット	H28 年 11 月 18 日～20 日
FGO 冬祭り 2016-2017 ダ・ヴィンチちゃんコード	H28 年 12 月 17 日
超体験！ふしぎな科学の遊園地 in 北九州	H28 年 12 月 23 日～25 日 H29 年 1 月 2 日～4 日、 1 月 7 日～9 日
FP 技能検定試験	H29 年 1 月 21 日
筑紫女学園大学 一般入試 (前期日程) 北九州試験場	H29 年 1 月 31 日
HKT48 全国握手会 (8th シングル「最高かよ」)	H29 年 2 月 5 日
福岡カスタムカーショー出展社説明会	H29 年 3 月 8 日
2016 Award Meeting in Fukuoka	H29 年 3 月 11 日
福岡カスタムカーショー2017 in KITAKYUSHU	H29 年 3 月 25 日～26 日

6 閑散期対策等のイベントコーディネート

夏季閑散期にぎわいイベント

7 月に「プラレール博 in KITAKYUSHU」を地元テレビ局の F B S 福岡放送と本館で開催した。平成 26 年度に続く 2 回目の開催であり、来場者数は当初予測より増加し、約 4.4 万人で安定した人気を誇った。

冬季閑散期にぎわいイベント

12 月の 3 連休と 1 月の年始に「超体験！ふしぎな科学の遊園地 in 北九州」を新館で初開催した。F B S 福岡放送とサガテレビの 2 社が、系列局の垣根を越えて主催となる画期的なにぎわいイベントとなった。

営業 閑散期対策・ビジネスイベント等 (H28 年度)

() は新規開催

催事名	会 期	入場者数
プラレール博 in KITAKYUSHU	7/16～19	43,503 名
超体験！ふしぎな科学の遊園地 in 北九州 ()	12/23～25、1/2～4、1/7～9	27,852 名
合 計		71,355 名

広報・宣伝、地域連携

7 広報、宣伝

ホームページにおいて、イベントの最新情報や施設の紹介、協会の主催事業やコンベンション誘致に関する情報を提供し、見やすく迅速な情報発信ができるように努めた。

8 地域連携

小倉駅新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会や地域清掃イベント等を行うなど、地域の一体感形成に向けた活動やにぎわいづくりにも取り組んだ。

さらにJR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州及びJR西日本との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

管理・運営

9 お客様満足度の向上

サービスの向上

利用者にわかりやすい情報を提供するため、ホームページ上の写真の更新やサービスの詳細を追加したほか、申請書ダウンロードの手順説明を加え、利用者、施設管理者双方の手続き業務の効率化を図った。そのほか、ミクニワールドスタジアム北九州の建設に伴い交通規制や工事が発生したが、建設業者との綿密な打合せにより利用者に悪影響が生じないよう努めた。

職員の資質・能力の向上

専門講師を招いた企画力向上によるプレゼンテーション能力強化のための研修の実施や、民間研修機関主催のコミュニケーションスキル研修及びセルフリーダーシップ研修への派遣等、MICE推進機関としての役割を果たすため職員の資質・能力の向上を図った。

10 利用料金制度の活用

平成26年度に新設したスポーツ利用及び名古屋市の施設との相互利用割引制度が利用されており、今後もこれらの特別料金制度を活用することで、さらなる施設の利用を促進する。

11 管理業務の効率化

電力使用料金の低減を図るため、平成28年度より、電力会社を変更し、引き続きデマンドの監視、力率の改善、空調動力の時差運転の実施等、消費電力の削減に努めた。

12 施設の改修等

お客様の利便性、安全性の向上等を図るため、施設設備の改修更新等を行った。

- * 展示場本館：空調設備更新、外壁塗装、シャッター改修、建具入替、天井漏水箇所改修
- * 展示場新館：防災システム更新、排水ポンプ更新、蓄電池更新、屋上ドレイン管改修
- * 国際会議場：イベントホールテラスの壁・床石補修工事、LANケーブル不良箇所修繕

13 施設の稼働率等

西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
28年度	65	252	78.5	27
27年度	72	279	77.5	30
26年度	70	277	78.7	40

西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
28年度	163	299	81.8	57
27年度	166	297	84.1	65
26年度	159	281	81.7	46

北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
28年度	568	321	92.2	7
27年度	548	319	90.4	7
26年度	577	321	91.5	7

14 合併に向けた検討の着手

組織基盤の強化、拡充を図り、MICE誘致及び観光振興をより一層推進するため、北九州市観光協会との合併作業を進め、県の認可を経て、29年度より新たに公益財団法人北九州観光コンベンション協会として発足することとなった。

15 指定管理

指定管理期間(26年度から30年度)の3年目であった28年度は、指定管理計画に掲げた目標(来場者数(展示場・会議場)76万人、コンベンション誘致件数190件など)を概ね達成(来場者数90万人、コンベンション誘致件数195件など)した。

Ⅲ 平成 28 年度決算

1 貸借対照表(総括表)

平成 29 年 3 月 31 日現在 (単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	397,471,452	321,872,787	75,598,665
受取手形	0	0	0
未収金	30,289,727	29,080,781	1,208,946
前払金	100,500	0	100,500
繰延税金資産(短期)	3,253,000	2,721,000	532,000
立替金	4,586	36,433	▲ 31,847
仮払金	14,315,647	15,531,165	▲ 1,215,518
流動資産合計	445,434,912	369,242,166	76,192,746
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	501,968,366	400,439,131	101,529,235
建物付属設備	4	4	0
構築物	259,139	345,517	▲ 86,378
機械及び装置	65,712,281	35,688,192	30,024,089
基本財産引当資産	760,941,250	760,861,242	80,008
減価償却引当資産	984,856,543	1,169,552,126	▲ 184,695,583
基本財産合計	2,313,737,583	2,366,886,212	▲ 53,148,629
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	148,323,806	160,351,470	▲ 12,027,664
減価償却引当資産	32,212,349	32,212,349	0
目的事業引当資産	625,085,525	625,076,525	9,000
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	85,000,000	46,000,000	39,000,000
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
主催事業強化費用準備資金積立資産	10,000,000	10,000,000	0
誘致事業強化費用準備資金積立資産	3,100,000	6,100,000	▲ 3,000,000
広報宣伝強化費用準備資金積立資産	40,000,000	40,000,000	0
特定資産合計	1,026,371,680	1,002,390,344	23,981,336
(3) その他固定資産			
建物	2,768,221	2,878,786	▲ 110,565
構築物	1,975,757	2,190,461	▲ 214,704
車両運搬具	1,416,824	2,495,825	▲ 1,079,001
什器備品	406,809	568,989	▲ 162,180
ソフトウェア	126,000	180,000	▲ 54,000
繰延税金資産(長期)	266,000	98,000	168,000
その他目的有価証券	75,000	60,000	15,000
その他固定資産合計	7,034,611	8,472,061	▲ 1,437,450
固定資産合計	3,347,143,874	3,377,748,617	▲ 30,604,743
資産合計	3,792,578,786	3,746,990,783	45,588,003

II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	141,778,915	140,653,414	1,125,501
前受金	43,745,458	18,716,154	25,029,304
預り金	11,447,514	11,764,143	▲ 316,629
仮受金	303,186	1,118,550	▲ 815,364
未払法人税等	30,601,300	30,351,200	250,100
賞与引当金	11,014,263	11,531,565	▲ 517,302
流動負債合計	238,890,636	214,135,026	24,755,610
2. 固定負債			
退職給付引当金	148,323,806	160,351,470	▲ 12,027,664
固定負債合計	148,323,806	160,351,470	▲ 12,027,664
負債合計	387,214,442	374,486,496	12,727,946
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
展示場設備受贈益	394,871,455	436,472,844	▲ 41,601,389
基本財産運用益	4,941,250	4,861,242	80,008
指定正味財産合計	1,155,812,705	1,197,334,086	▲ 41,521,381
(うち基本財産への充当額)	(1,155,812,705)	(1,197,334,086)	(▲ 41,521,381)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	2,249,551,639	2,175,170,201	74,381,438
(うち基本財産への充当額)	(1,157,924,878)	(1,169,552,126)	(▲ 11,627,248)
(うち特定資産への充当額)	(878,047,874)	(842,038,874)	(36,009,000)
正味財産合計	3,405,364,344	3,372,504,287	32,860,057
負債及び正味財産合計	3,792,578,786	3,746,990,783	45,588,003

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日（単位：円）

	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	11,839,004	12,701,511	▲ 862,507
展示場設備受贈益	41,601,389	34,181,809	7,419,580
特定資産運用益	4,371,500	3,892,279	479,221
受取会費	4,492,800	4,633,200	▲ 140,400
事業収益	587,209,999	605,766,416	▲ 18,556,417
受取補助金等	306,966,671	306,758,089	208,582
受取負担金	67,969,416	66,023,878	1,945,538
雑収益	18,924,314	18,798,391	125,923
経常収益計	1,043,375,093	1,052,755,573	▲ 9,380,480
(2) 経常費用			
事業費	921,624,126	940,343,669	▲ 18,719,543
管理費	14,788,524	12,244,842	2,543,682
経常費用計	936,412,650	952,588,511	▲ 16,175,861
当期経常増減額	106,962,443	100,167,062	6,795,381
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
車両運搬具売却益	0	0	0
その他経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除去損	0	2	▲ 2
機械及び装置除去損	2,679,705	0	2,679,705
その他経常外費用	0	0	0
経常外費用計	2,679,705	2	2,679,703
当期経常外増減額	▲ 2,679,705	▲ 2	▲ 2,679,703
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	30,601,300	30,351,200	250,100
法人税等調整額	▲ 700,000	▲ 151,000	▲ 549,000
当期一般正味財産増減額	74,381,438	69,966,860	4,414,578
一般正味財産期首残高	2,175,170,201	2,105,203,341	69,966,860
一般正味財産期末残高	2,249,551,639	2,175,170,201	74,381,438
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	4,384,535	4,435,516	▲ 50,981
一般正味財産への振替額	45,905,916	38,537,317	7,368,599
指定正味財産返還額	0	100,000,000	▲ 100,000,000
当期指定正味財産増減額	▲ 41,521,381	▲ 134,101,801	92,580,420
指定正味財産期首残高	1,197,334,086	1,331,435,887	▲ 134,101,801
指定正味財産期末残高	1,155,812,705	1,197,334,086	▲ 41,521,381
III 正味財産期末残高	3,405,364,344	3,372,504,287	32,860,057

平成 29 年度事業計画

1 総論

当協会を取り巻く中長期的な経営環境は、主催事業に求められる出展者・来場者のニーズの変化、MICE や観光に関する世界規模での誘致競争、周辺都市における展示場やコンベンション施設の新・増設の予定、国内各都市の観光客誘致の取り組みなどにより一層、競争が激化するものと思われる。

そこで、国の施策の活用や北九州市との連携を進め、統合した2つの組織の結びつきを強化し、相乗効果が発揮できるよう、事業活動に取り組んでいかねばならない。また、MICE 事業部門では、経営の効率化を一層進めるとともに、統合した観光事業部門は、財務・事業基盤を早期に強化し、自主自立の経営を確立していかねばならない。

【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICEを推進するとともに、国内外の観光客誘致・滞在化を促進し、産業振興・国際化ならびに観光振興の推進・にぎわいづくりで北九州市の新成長戦略などの政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していくことである。この役割を果たすため、次の基本理念に基づき、引き続き事業を推進していく。

ア MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・MICE研究の深化による専門性とMICE開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した主催事業のリニューアルと新規開発研究・企画
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上

に取り組み、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する。

イ MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開

- ・MICE開催によるビクターズインダストリーの積極的な推進
- ・主催事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・有効な広報宣伝の実施
- ・他団体・他施設との連携によるエリアマネジメント
- ・観光事業との連携

に取り組み、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する。

ウ 施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場3施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード・ソフト両面でおもてなしの心の反映

に取り組み、多様な利用者ニーズに合致した施設づくりを推進し、目的達成の基盤を整える。

エ 情報発信・受入体制の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進

- ・「北九州市国際観光推進協議会」事業によるインバウンド誘致の強化
- ・北九州市の魅力向上、情報発信力の向上を図り、国内外からの観光客増に向けた仕組みづく

りと活動

- ・観光客の受入体制の強化とおもてなしの向上
- ・地域資源の活用、新たな観光資源の掘り起こしによるにぎわいの創出
- ・M I C E 事業との連携

に取り組み、情報発信・受入体制の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進する。

【29年度の取組概要】

ア 協会主催事業の強化

北九州市新成長戦略や地方創生総合戦略等の動向を踏まえながら、国際化の対応、産業貿易の振興やにぎわいの創出、社会課題への対応に貢献する協会主催事業を開発・推進する。

(7) 産業貿易振興型の主催事業の開発・推進

エコテクノ・福祉機器展などの既存事業について、企画内容の充実、出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取組みを進める。

(1) 新規事業の開催

九州の成長を支える「観光分野」をテーマに取り入れ、「旅」・「食」・「インポート」を中心とした体験的要素を盛り込んだ展示会「ワールドマーケット&ツーリズム2017」を開催する。

(7) にぎわい創出型の主催事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、ファミリー・イベントの開催を行うとともに、ミクニワールドスタジアム北九州と連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

イ 韓国釜山広域市B E X C Oとの連携の促進

27年度に締結した韓国釜山広域市にあるB E X C OとのM O Uに基づき、展示会のグローバル化への対応を進める。アジアに市場を求める国内企業支援や展示会の相互出展協力や新たな展示会の開発、将来的な人材交流など協会の国際化を推進する。

ウ コンベンション誘致の強化

国際・全国規模の大会・展示会の誘致に取り組む。スポーツ大会や入学式等での展示場利用の拡大などに積極的に取り組み、西日本屈指のM I C E 開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝の更なる振興とにぎわいづくりに貢献する。また、市のM I C E 開催助成金の戦略的な運用のほか、地域の文化・観光関連団体・施設との連携、他都市と連携した広域的な誘致戦略も推進する。

エ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率、利用者数等の向上に向け、既存の利用者の定着化、潜在的な顧客の掘り起こしを目的とした積極的な営業を推進する。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。また、特に、閑散期における利用者増・収入増を目的に、親子を対象としたにぎわいイベントなどの企画・開催に積極的に取り組む。

オ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントの誘致、開催

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップとにぎわいづくりにつながるイベントや事業などを開催することを検討していく。

あるあるC i t y、あさの汐風公園、ミクニワールドスタジアム北九州など地域の資源を活

用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行う。

カ お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や快適な利用環境を確保するため、貸出備品等の充実や手続き業務の効率化、簡素化を図ること等を検討する。また、人材育成に努め、接客力の充実に図り、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

キ 西日本総合展示場などの施設の改修等

建築後 39 年を経過する本館について、劣化等に対応した維持補修を着実に進めるとともに、耐震改修工事については、工期の設定に向けた準備を進める。

ク 本館開館 40 周年及び合併記念式典の開催準備

29 年度に西日本総合展示場本館開館 40 周年を迎えることから、記念式典を 29 年 7 月に開催する。

ケ 参画事業等によるインバウンド誘致の強化

「北九州市国際観光推進協議会」など、行政及び団体、会員企業で構成する推進団体の活動を軸に、台湾、韓国、香港、中国など東アジアの旅行社などへのセールス活動や、F I T 向けの P R 活動を強化し、外国人観光客の誘致を推進する。

コ 新しい観光素材の開発と分析・広報の強化

新しい観光素材の発掘や各種セールス活動、観光セールス手法の開発などを行うため、ホームページや F a c e b o o k などのアクセス解析・分析を行い、観光客誘致のシステムづくりに向けた調査・分析、及び P R 強化に取り組む。

サ 観光マインドの育成とスキルアップによる観光客受け入れ体制強化

外国人観光客の受け入れ体制強化へ向けた語学等の研修など、観光業務従事者のスキルアップを目指したセミナー等を開催する。

また、北九州観光市民大学を開講し、大学生の観光マインド醸成に努めるとともに、観光案内ボランティアを養成し、観光面でのボランティア活動の活性化を推進する。

シ 観光に関する施設の管理・運営

観光案内所運営協議会の一員として、より質の高い案内業務を実施するため、民間委託業者へのタイムリーな観光情報の提供と案内業務の支援を行う。

また、新たな観光施設の管理・運営について、指定管理者募集等への提案企画案や事業採算の検討に着手する。

ス 特産品 P R 事業の効果的な実施

通販サイトについては、これまでの実績データに基づき、より話題性の高い商品などを発掘し、魅力あるサイト運営に努める。

臨時売店等出展については、M I C E 事業部門と連携を図りながら、M I C E で訪れたビジターへ向けた北九州市特産品の P R ・販売を強化していく。

セ 収益事業の安定的運営

観光事業部門の財務基盤を更に強化し、事業部門での独立採算経営を確立するため、門司港レトロお土産センター「北九州おみやげ館」や、小倉駅 J A M 広場・J A M ビジョン事業等の主要な収益事業について、効率的な経営と営業強化による収益増を目指していく。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

平成 29 年度は M I C E 事業部門では指定管理期間の 4 年目を迎える。指定管理計画に掲げる目標（29 年度：来場者数（展示場・会議場）77 万人、コンベンション誘致件数 195 件など）を着実に達成するため、計画的・組織的な取り組みを進める。

2 各論

見本市・展示会事業

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成 29 年度は、「エコテクノ 2017」など、9 事業を開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

《平成 29 年度開催の事業（新規事業を含む）》

事業名	開催期日	入場目標	出展目標
ワールドマーケット&ツーリズム 2017	5 月 3 日 ～7 日	50,000 人	250 社・団体
西日本製造技術イノベーション 2017	6 月 21 日 ～23 日	20,000 人	60 社・団体
第 43 回ふくおか産業技術振興展			30 社・団体
第 39 回西日本陶磁器フェスタ 第 24 回日本陶芸展 九州展	9 月 14 日 ～18 日	50,000 人	200 社
エコテクノ 2017 (地球環境ソリューション展)	10 月 11 日 ～13 日(予定)	30,000 人	110 社・団体
エコテクノ 2017 (エネルギー先端技術展)			100 社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ 2017			25 社・団体
中小企業テクノフェア i n 九州 2017			65 社・団体
P. P. C. 2017 第 19 回西日本国際福祉機器展	11 月 9 日 ～11 日	30,000 人	130 社・団体
合計	9 事業	180,000 人	1,120 社・団体

《企画内容の充実》

■ 『西日本陶磁器フェスタ』の企画充実

→全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器をテーマとする各種企画展の併設や、恒例の「ロールケーキフェスタ」を同時開催。また、ビエンナーレ開催となる「日本陶芸展 九州展」(共催:毎日新聞社)を同時開催し、商取引の促進や地域のにぎわいづくりを目指す。

■ 『エコテクノ』の強化

→主催機関で連携を強化し、営業活動に取り組む。水ビジネスやバイオマス等の分野に視点

を広げるほか、ビジネスマッチングを充実し、成果の上がる展示会として、魅力向上に努める。

ウェルディングフォーラム西日本（仮称）の誘致開催

29年度は、西日本製造技術イノベーションに、（一社）日本溶接協会、産報出版（株）が開催する溶接関連事業を誘致連携して開催する。広報ツールの相互掲載の検討、出展内容、セミナー、シンポジウムのテーマ性を相互に有効なものとし、連携開催の相乗効果を発揮できるよう検討していく。

《国際ビジネスの推進》

韓国釜山広域市BEXCOとの連携

27年度に締結したMOUに基づき、相互出展の拡大と海外展示会への出展、展示会の開催調査、新規事業の開発に取り組む。

インキュベーション型の事業の開発・推進

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、北九州市と協力して新規展示会（6次産業分野・デジタルものづくり関連など）の開発を行う。またIoTやロボット関連、医工連携など様々なテーマのフェアインフェアやセミナーなどを行い、新規展示会の開催ニーズを探索する。

《新規事業の展望》

『ワールドマーケット&ツーリズム2017』の開催

観光関連企業・団体及びメディアと協力し、「旅」・「食」・「インポート」を中心とした企画に基づき体験的要素を盛り込み、小倉駅新幹線口におけるゴールデンウィークの賑わい創出と観光産業振興による九州経済の活性化を目指して開催する。

『ロボット総合産業フェア（仮称）』の開催

西日本製造技術イノベーション2017にて企画コーナーを設ける。

『地域ニーズを捉えた新規企画』の開催

今後の西日本製造技術イノベーションにて、北九州市の進める産業用ロボット導入支援事業に沿った企画コーナーを発展・拡大させ、民生用ロボットも取り込んだロボット総合産業展への展開を図る。

『地域ニーズを捉えた新規企画』の開催

国の地方創生総合戦略や熊本地震等の復興支援事業など地域のニーズにあわせて新規企画を開催し、主催事業との相乗効果を図る。

にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、北九州スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

会議・大会等

グローバルMICE強化都市選定による国際会議誘致の強化

ICCAへの加入により、北九州開催に適した会議の情報収集が可能となり、的を絞った営業活動を行うことで国際会議誘致を強化する。また、「北九州市グローバルMICE推進協議会」

を設立したことにより地元ステークホルダーとの連携促進体制を強化し、海外見本市・商談会への参加や、英語版ホームページ等海外向けPRツールの充実を図る。

(2) 誘致マーケティングについての取組み

4 大学（九州工業大学、九州歯科大学、北九州市立大学、産業医科大学）、北九州市、北九州商工会議所との連携協定を活用した誘致活動を行うほか、JNTOからの情報収集、IMEへの参加を行うなどでマーケティング活動に取り組む。

(3) 誘致セールスについての取組み

国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用の促進、主催事業にマッチした誘致営業、MICE開催助成金を活用した営業、インセンティブツアーやスポーツ関係の誘致等に取り組む。

(4) 開催支援への取組み

会議支援制度の拡充、新たなユニークベニューの開発、産業観光などのエクスカージョンの活用等を行い、観光事業部との連携等を行い、北九州市のPRを図る。

また、増加する国際会議に対応するため他ボランティア団体との連携、コンベンションボランティア制度などきめ細かな誘致支援活動を行う。

貸館利用者の誘致・営業強化

(1) リピーターの定着化及び復活

当協会の展示場施設の収益の安定を図るために、重要なリピーターの施設利用の定着化や復活開催を推進させる。また、特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し引き続き営業フォローに努める。

(2) 新規利用者の開拓

新たな利用形態を開拓するため、地元の経済波及効果を高め、施設の知名度の向上につながるコンサートやゲーム大会のほか、試験日程が安定している資格検定試験や入学試験などを中心に営業活動を展開する。

(3) 「にぎわいづくり・営業推進本部」の機能強化

従来からある「営業推進本部」の機能を強化することを目的として、平成28年7月に営業課が、北九州国際会議場1F事務所に移転し、サービス課と協働で質の高い貸館サービスを提供している。情報共有を進めることで、CS向上につなげていく。

(4) 「にぎわいイベント」への取組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。平成28年度には、夏休みに開催した「プラレール博 in KITAKYUSHU」については、2年ぶり2回目の開催であったが、1日あたりの動員数は前回は上回った。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくために、会場利用等の条件の整備、コンテンツの選定を十分に見極め、ファミリーに喜んで来場してもらえる「にぎわいイベント」を構築していく。

(5) 「大規模イベント」開催支援

規模が大きく、話題性が強い、多数の集客が見込める大規模イベントの開催支援を積極的に行う。

広報・宣伝、地域連携

広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、JR小倉駅のマルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献していくため、あるあるCity、ミクニワールドスタジアム北九州などと連携したイベントの開催の検討、小倉駅新幹線口地区振興連絡会の活動に積極的に取り組む。

管理・運営

サービスの向上

利用者アンケートや利用実態等を参考に貸出備品等の充実を図る。インターネット接続環境に関しては、Wifiフリースポットの再整備を含め、学会等の利用者ニーズに沿った環境づくりに努める。また、ミクニワールドスタジアム北九州との連携を図る上で、当施設でできるハード・ソフト面でのサービスメニュー等、来場者への満足度向上に繋がるような利用方法を検討する。

職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高めるための研修等を積極的に導入する。引き続き個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等も意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。

施設・設備の改修等

展示場・会議場を、いつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

展示場本館の対応等

築40年を迎え、経年劣化による設備等の改修に注意し、効率的、効果的な修繕計画を検討する。また、耐震改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

西日本総合展示場開館40周年記念事業

平成29年に西日本総合展示場本館が開館40周年を迎えることから記念事業を行い、施設利用者をはじめ関係機関への感謝の意を伝えるとともに、今後の更なる利用促進につなげる。具体的には、記念式典や著名人を講師に招いた講演会の開催のほか、40周年記念ロゴを作成し、誘致営業や主催事業で活用する。

観光客の誘致及び滞在化促進

観光客誘致事業・滞在化促進事業

北九州市への観光客が増加している東アジアを中心とした旅行社へのセールスを強化すると

ともに、国内向けの観光キャンペーンを実施し、北九州市への誘客や滞在化促進を図る。また、各都市で開催される祭り・イベント等への出展やPR活動を行い、北九州市での祭り・イベントへの参加を促すことで、都市間交流による観光客誘致に繋げていく。

修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、修学旅行の行程等の実施状況等の調査や旅行社教育旅行担当者へのセールスを実施する。

また、修学旅行の受け入れ体制を充実させるため修学旅行ガイドの養成や新たな修学旅行受け入れのメニュー作りなども行い、教育関係者を招いたFAMツアーなども企画していく。

助成事業

北九州市観光振興プラン等に掲げる、観光客数の目標数値 平成31年 2,460万人(うちインバウンド40万人)を見据えて、国内向け旅行商品企画に対する助成や、海外旅行商品企画に対する助成を行い、国内外旅行者の誘客を促進する。

また、北九州市を代表する伝統的な祭事に対し補助を行い、集客力のある祭事の継続による観光客の誘致を図る。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州市の観光情報やイベント、コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光だより」の発行や、北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北九州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の観光関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookなどのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、観光客のニーズに合った観光素材のPR活動を強化していく。

観光に関する人材の育成及び啓発

外国人観光客の増加に対応し、受け入れ体制の充実を図るため、観光業務従事者を対象におもてなし意識の向上や語学等のコミュニケーション能力のスキルアップを目的としたセミナーを実施するなど、観光マインド育成事業を行う。

また、観光ボランティア制度の運営や北九州観光市民大学を開講し、観光マインドの醸成を推進する。

観光に関する施設の管理・運営(公益)

北九州市、JR九州、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)と当協会が組織した「北九州市観光案内所運営協議会」を中心に、官民一体となった観光案内所のサービス強化を図る。

また、新たな観光施設の管理・運営の検討に着手する。

特産品の紹介・宣伝

特産品紹介パンフレットを作成し、市内各所で設置・配布を行う他、北九州市の特産品をホームページで紹介するとともに、「北九州観光市場」「楽天市場」などの通販サイトで購入できるシステムを管理運営し、販売促進に努める。

また、市内外で開催されるイベントや観光物産展のほか、MICE事業との連携を図り小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場で臨時売店を出店し、北九州市の特産品やお土産を販売していく。

観光に関する施設の管理・運営（収益）

門司港レトロ地区で運営する売店「北九州おみやげ館」において、新商品や話題の商品等を考慮した品ぞろえを行い、売上の増加を目指すほか、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営に努める。

また、JR小倉駅3階のJAM広場及びJAMビジョンについて、委託業者との連携を密にし、新たな顧客開拓に繋がる営業活動を行うことで収益増を目指す。

V 平成 29 年度予算

1 収支予算書(総括表)

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日 (単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	5,354,000	1,691,000	4,305,000	0	11,350,000
展示場設備受贈益	38,964,000	12,305,000	0	0	51,269,000
特定資産運用益	4,668,000	109,000	0	0	4,777,000
受取会費	12,200,000	0	0	0	12,200,000
事業収益	357,625,000	485,650,000	0	0	843,275,000
受取補助金等	364,009,624	0	430,376	0	364,440,000
受取負担金	38,810,000	27,486,000	0	0	66,296,000
協賛金	1,000,000	0	0	0	1,000,000
雑収益	3,932,000	9,894,000	1,178,000	0	15,004,000
経常収益計	826,562,624	537,135,000	5,913,376	0	1,369,611,000
(2) 経常費用					
事業費	923,103,110	385,106,030	0	0	1,308,209,140
管理費	0	0	17,900,260	0	17,900,260
経常費用計	923,103,110	385,106,030	17,900,260	0	1,326,109,400
評価損益等調整前当期経常増減額	▲96,540,486	152,028,970	▲11,986,884	0	43,501,600
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲96,540,486	152,028,970	▲11,986,884	0	43,501,600
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	73,379,777	▲78,649,193	5,269,416	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	30,000,000	0	0	30,000,000
当期一般正味財産増減額	▲23,160,709	43,379,777	▲6,717,468	0	13,501,600
一般正味財産期首残高	1,978,443,583	274,996,520	▲14,997,786	0	2,238,442,317
一般正味財産期末残高	1,955,282,874	318,376,297	▲21,715,254	0	2,251,943,917
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	4,385,008	0	4,385,008
一般正味財産への振替額	38,964,000	12,305,000	4,305,000	0	55,574,000
当期指定正味財産増減額	▲38,964,000	▲12,305,000	80,008	0	▲51,188,992
指定正味財産期首残高	305,872,359	96,590,485	760,941,250	0	1,163,404,094
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	266,908,359	84,285,485	761,021,258	0	1,112,215,102
III 正味財産期末残高	2,222,191,233	402,661,782	739,306,004	0	3,364,159,019

VI 役員名簿

平成 29 年 5 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	中溝明弘	(公財) 北九州観光コンベンション協会
理事	加茂野秀一	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	廣瀬香	(一社) 九州経済連合会 社会基盤部長
〃	村上英治	(一財) 九州産業技術センター 常務理事
〃	熊野一雄	小倉社交事業組合 組合長
〃	関宣昭	NPO法人里山を考える会 代表
〃	南浦忠義	(株) リーガロイヤルホテル小倉 総支配人
監事	石井佳子	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事